

試験名

ALL202-0 付随研究2. **終了**

成人急性リンパ性白血病 (ALL) におけるWT1アッセイを用いた微小残存病変 (MRD) 測定意義の検討

研究事務局：玉置 広哉（大阪南医療センター 内科）

概要・目的

寛解となった ALL 患者の骨髄中 WT1 レベルを RQ-PCR 法で経時的に定量評価することによって、化学療法後の WT1 の発現が再発ハイリスク症例を層別化するのに有用であるかを検討する。

対象

- ・ ALL202-0試験に登録されている症例
- ・ 初診時キメラ遺伝子スクリーニング検査で骨髄WT1レベルが10,000コピー/ μ g RNA以上
- ・ 寛解例
- ・ 本随伴研究への参加について文書による同意が得られている

目標症例数

150 例